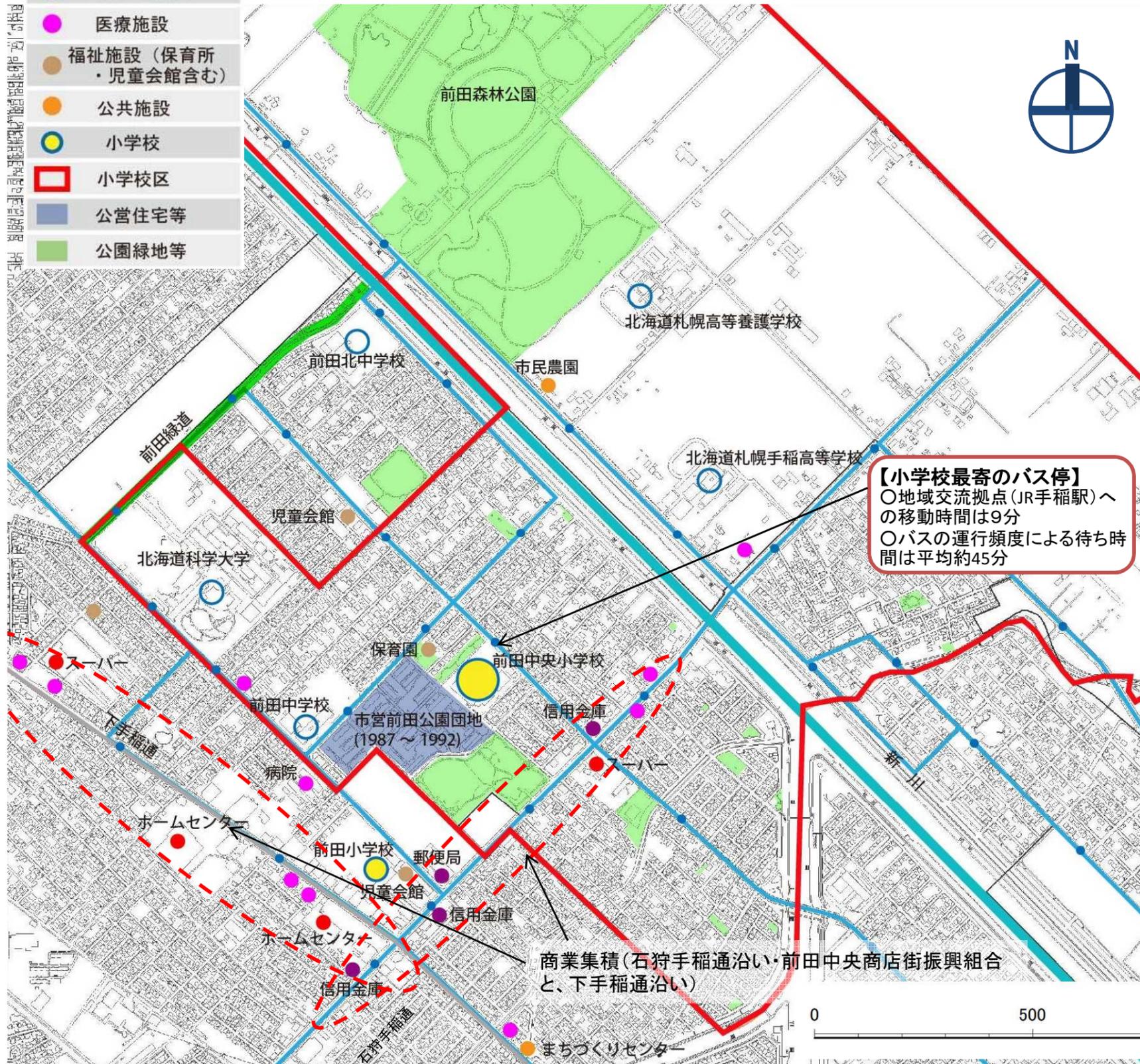


# 6. 住宅地における歩いて暮らせるまちづくりの検討について（モデル地区：手稲区前田地区）

## 【手稲区前田地区における現状・課題と施策の可能性】

凡例	
	バス停・バス路線
	商業施設
	銀行・郵便局
	医療施設
	福祉施設（保育所・児童会館含む）
	公共施設
	小学校
	小学校区
	公営住宅等
	公園緑地等



	現状・課題	施策の可能性	
身近な生活利便機能・サービスの確保	小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>前田中央小学校：S61年築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建替え時には地域に必要な機能を確保し、施設を複合化</li> <li>建替え時以外でも空き教室の有効活用等により一層地域との連携を図るなど地域コミュニティ拠点としての機能強化</li> <li>※札幌市有建築物の配置基本方針より</li> </ul>
	小学校区内及び周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も高齢化が進む見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多世代交流の拠点や若年層が住みやすい環境づくり（小学校周辺）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>校区の石狩手稲通沿いは商店街。</b></li> <li>歩道幅員が不十分なアクセス道路がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>石狩手稲通に至る生活道路の歩きやすさの向上</li> <li>高齢者等に対する、生活利便性の維持</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>大学周辺に地区計画の指定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用計画制度の適切な運用により引き続き良好な環境を保全</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>市営住宅団地や公園緑地が小学校に隣接</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建替え時に合わせ、周辺地域の実情やニーズを考慮</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地内に未利用地や公園が点在。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未利用地・公園を含めた交流の場の再編</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地内の歩道は整備され、小学校や生活利便施設への移動が容易。</li> <li>公園・緑道等がネットワークされているところもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な通学路沿道では、地域の実情やニーズに合わせた土地利用計画制度の適切な運用</li> <li>みどりのネットワークの維持保全</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校から最寄のバス停まで約100m</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特性に応じた交通の確保（バス等の利便性向上）</li> </ul>		
地域資源の活用・連携によるさらなる価値の向上	市街化区域	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>生活利便・公共施設が下手稲通沿道に集中。</b></li> <li><b>石狩手稲通沿いは商店街。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元商業者と連携したまちづくりの展開（イベント交流、買物支援など）</li> </ul>
	市街化調整区域	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>校区内に北海道科学大学、札幌手稲高校が立地</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携による住環境の維持や交流、地域とともに学ぶ機会の創出（地域学習講座、みどりづくりなど）</li> </ul>
市街化調整区域	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>校区内に前田森林公園や農地、市民農園など平地系の地域資源が点在</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩きによる健康増進への活用</li> <li>地域の景観資源として保全</li> <li>周辺施設の運営主体とネットワークをつくり、健康増進や生涯学習に資する地域づくり</li> </ul>	

# 6. 住宅地における歩いて暮らせるまちづくりの検討について（モデル地区：北区屯田地区）

## 【北区屯田地区における現状・課題と施策の可能性】

- 凡例**
- バス停・バス路線
  - 商業施設
  - 銀行・郵便局
  - 医療施設
  - 福祉施設（保育所・児童会館含む）
  - 公共施設
  - 小学校
  - 小学校区
  - 公営住宅等
  - 公園緑地等



	現状・課題	施策の可能性	
身近な生活利便機能・サービスの確保	小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>屯田小学校：H26年度改築中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域開放の動向に配慮し、周辺施設も含め多世代交流の場として利用</li> </ul>
	小学校区内及び周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は高齢化率は低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来を見据え、小学校周辺に子育てサポートを含めた世代間交流の場づくり（近隣の高校や大学との連携含む）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校周辺に<b>福祉施設や児童会館、神社などが集中</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校周辺における地域の交流の場（イベント、交流行事、祭りなど）の充実</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地内に未利用の土地が残っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期未利用地解消に合わせ、地域のニーズに合わせた機能の導入（農園、交流施設、再エネ・省エネ施設の導入、多世代居住、雪処理など）</li> <li>地域の実情・ニーズに合わせた土地利用計画制度の適切な運用</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者空間は、歩道整備され、小学校や生活利便施設への移動が容易。</li> <li>公園・緑道・パークゴルフ場等がネットワークされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な通学路沿道では、地域の実情やニーズに合わせた土地利用計画制度の適切な運用</li> <li>みどりのネットワークの維持保全</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校から最寄のバス停まで約100m</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特性に応じた交通の確保（バス等の利便性向上）</li> </ul>	
地域資源の活用・連携によるさらなる価値の向上	市街化区域	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>緑道など歩行者専用道、拠点的な公園(屯田西公園)、創成川、防風林など、多様なみどりの資源が存在</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩きによる健康増進への活用</li> <li>地域の景観資源として保全</li> </ul>
	市街化調整区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>新琴似通沿いに生活利便施設が集積（校区内にも大型店が立地）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業店舗と住宅地を繋ぐ道路の環境整備</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>北陵高校、有朋高校が立地（校区内）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携による住環境の維持や交流、地域でともに学ぶ機会の創出 など</li> </ul>
市街化調整区域	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>市街化調整区域の防風林、農地・草地 など</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩きによる健康増進への活用</li> <li>地域の景観資源として保全</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤女子大が近接（石狩市）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携によるまちづくり</li> <li>大学の協力による市民講座など住民の学びの場の創出</li> </ul>	

屯田防風林(ポプラ通り風致地区)

**【小学校最寄のバス停】**  
 ○地域交流拠点(麻生駅)への移動時間は14分  
 ○バスの運行頻度による待ち時間は平均約9分

# 6. 住宅地における歩いて暮らせるまちづくりの検討について(モデル地区:西区宮の沢地区)

## 【西区宮の沢地区における現状・課題と施策の可能性】

- 凡 例**
- バス停・バス路線
  - 商業施設
  - 銀行・郵便局
  - 医療施設
  - 福祉施設(保育所・児童会館含む)
  - 公共施設
  - 小学校
  - 小学校区
  - 公営住宅等
  - 公園緑地等



**【小学校最寄のバス停】**  
 ○地域交流拠点(宮の沢駅)への移動時間は8分  
 ○バスの運行頻度による待ち時間は平均約30分

	現状・課題	施策の可能性	
身近な生活利便機能・サービスの確保	小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>手稲宮丘小学校：H10年築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建替え時には地域に必要な機能を確保し、施設を複合化</li> <li>建替え時以外でも空き教室の有効活用等により一層地域との連携を図るなど地域コミュニティ拠点としての機能強化</li> </ul> <small>※札幌市市有建築物の配置基本方針より</small>
	小学校区内及び周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般住宅地でありながら戸建住宅の多いエリアがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住環境保全のため、地域合意のもと土地利用計画制度の適切な運用</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も高齢化が進む見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多世代交流の拠点や若年層が住みやすい環境づくり(小学校周辺)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>生活利便・公共施設が旧国道5号沿道に集中</b></li> <li>歩道幅員が不十分なアクセス道路がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧国道に至る生活道路の歩きやすさの向上や身近な利便機能確保</li> <li>高齢者等に対する、生活利便性の維持</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地内に未利用地や公園が点在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未利用地・公園を含めた交流の場の再編</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者空間は、歩道がなく狭い生活道路や勾配のある道路がみられるが、みどり豊かな環境。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行空間の改善</li> <li>主な通学路沿道ではニーズに合わせた土地利用計画制度の適切な運用</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校から最寄のバス停まで約500m</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特性に応じた交通の確保(バス等の利便性向上)</li> </ul>		
地域資源の活用・連携によるさらなる価値の向上	市街化区域	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>地域交流拠点(宮の沢駅)から1~2kmと近い</b></li> <li>旧国道5号沿いで「西町・コンサ通りまちづくり実行委員会」によるまちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点への歩行環境の維持・改善</li> <li>地元企業と連携したまちづくりの展開(健康増進、スポーツ、青少年育成、観光・食など)</li> </ul>
	市街化調整区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮丘公園(風致公園)がある。</li> <li>周辺に豊かなみどり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然散策など</li> <li>周辺緑地の保全</li> </ul>

## 7. 市民アンケートの結果

### 7-1. 調査の概要

- (1) 調査の対象 札幌市に住んでいる18歳以上の市民3,000人を無作為に抽出
- (2) 調査の方法 郵送による配布、回収
- (3) 調査の期間 平成26年9月12日(金)～平成26年9月30日(火) ※集計は、平成26年11月26日回収分まで
- (4) 回収結果 903人の方から回答(回収率30.5%)

### 7-2. 調査結果の概要

#### (1) 札幌での暮らし

##### (1) 住まいや暮らし

- 居住環境では、買い物・通院や交通などの「生活利便性」を最も重視しており、続いて「安全性」「ゆとりや緑地等の環境」となっている。
- 居住環境で安全性を重視する回答が多いなか、若い世代は治安、高齢者は防災を重視する傾向にある。
- 約8割の市民が現在住んでいる場所に満足し、住み続けることを望んでおり、約1割が市内での移転の意向がある。
- 移転の意向は若い世代のほうが高い傾向である。また、交通利便性の低さを理由に移転したい人のうち、郊外が半数以上を占めている。
- 今後は、利便性の高い地域への居住意向が高くみられるが、郊外住宅地の居住者においては、一般・郊外住宅地での居住意向が比較的高くなっている。

##### (2) 交通環境

- 一般・郊外住宅地では自家用車・バス、拠点・複合型高度利用市街地では地下鉄の利用が中心となっている。
- 交通利便性の高い場所に移り住む場合、公共交通の利用意向が約8割みられる。

##### (3) まちの景観

- 山並みや河川、まちの眺望、緑豊かな街並みが札幌らしい景観であり、公共建築物・公園・道路などの公共施設整備における景観配慮が求められている。

#### (2) これからのまちづくり

- 人口減少下の市街地のあり方について、約6割が「市街地を拡大しない」、約3割が「中長期的に狭める」という回答となっている。
- 冬の快適な暮らし、災害に強いまち、省エネで環境に優しいまちが望まれており、若い世代は観光や文化、高齢世代は環境配慮を求める傾向がみられる。
- 今後の取組として、拠点への機能集積を求める声が多いが、郊外住宅地では自然環境が身近に感じられ、ゆとりある居住環境を求める傾向となっている。

#### (3) まちづくりへの参加

- まちづくり活動の参加経験は約3割であり、郊外にいくほど、また高齢になるほど参加経験の割合が高くなっている。
- 今後は、アンケートの協力などにより参加したいという意向が高くなっている。

## 8. 子どもアンケートの結果

### 8-1. 調査の概要

- (1) 調査の対象 札幌市内の小学校児童（3～6年生） 21校、1,430人
- (2) 調査の方法 郵送による配布、回収
- (3) 調査の期間 平成26年10月15日（水）～平成26年11月10日（月）
- (4) 回収結果 1,363人の方から回答（回収率 95.3%）

### 8-2. 調査結果の概要

#### (1) 現在の場所に住み続ける意向

- 約7割が、現在住んでいる場所に満足し、大人になっても住み続けることを望んでいる。
- 現在住んでいる場所に住み続ける意向は、郊外住宅地において高い傾向にある。
- 約3割が現在住んでいる場所に住み続けたくない意向であり、住んでいる場所が好きではないという理由の他、いろいろなところに住んでみたい、親から離れて暮らしたいなどの理由があげられた。

#### (2) 今後住みたい場所

- 自然豊かで静かな住宅地(郊外住宅地)での居住意向が高くみられる。
- 拠点などの利便性のよい地域に住む回答者は、利便性の高い場所への居住意向が比較的高くなっている。

#### (3) 今後のまちづくり

- 災害に強いまちが最も望まれており、その他、環境に優しいエコなまち、まちの景色が美しいまちが多く望まれている。

## 9. 市民ワークショップの概要

### (1) 目的

- 札幌市都市計画マスタープランの見直しに関するアンケート（平成26年9月実施）の回答者を対象に参加者を募集。
- 市民が考える市街地の魅力や課題、今後必要な取り組みについて意見をいただき、都市計画マスタープランをはじめとする都市づくりの将来像を描くための視点として活用していくことを目的とする。

### (2) 方法

- 参加を応募した方々の中から、年齢、性別、居住区などについて偏りが無いよう配慮した40名を選出し参加依頼。
- 5つのテーブルに分かれて市街地ごと（都心・地下鉄駅周辺・郊外住宅地）の良いところ、悪いところ、今後必要な取り組みについて意見を出し合いました。
- また、都市づくりに関する情報提供として、ワークショップの前段で事務局（札幌市）からオリエンテーションを行ったほか、開催3日前（12月3日）にワークショップ参加予定者を対象とした事前勉強会を開催しました。

### ワークショップの目的

札幌の都市づくりの将来像を描くための視点

ワークショップにおける議論内容を取りまとめ

まちの魅力

これからの取り組み

札幌が目指す  
まちの将来イメージ

まちの課題



都市の現状と課題について説明



グループ討議



グループごとの討議結果発表

# 9. 市民ワークショップの概要

## 意見のまとめ

